



THE AKAMATSU

知識の森

vol. 57
通信

編集：宇都宮共和大学入試広報委員会 発行：宇都宮共和大学

UTSUNOMIYA KYOWA UNIV.

宇都宮共和大学

宇都宮シティキャンパス 〒320-0811 栃木県宇都宮市大通り1-3-18 TEL.028-650-6611
長坂キャンパス 〒321-0346 栃木県宇都宮市下荒針町長坂3829 TEL.028-649-0511
那須キャンパス 〒329-3121 栃木県那須塩原市鹿野崎131 TEL.0287-67-3111



index

P1

- 都市経済研究センターシンポジウム
- 子育て支援研究センター公開講座

P2

- 親子遊びの会
- Tiny
- 宮桜祭
- みんな田川でバーベQ
- 合宿交流研修

シティライフ学部



都市経済研究センターシンポジウム



7月2日(火)に、「『MICE都市』の創造に向けて一産官学民による誘致戦略を考える」シンポジウムを、宇都宮シティキャンパスにて、本学都市経済研究センターと宇都宮まちづくり推進機構との共催により開催しました。

基調講演として、横浜市にぎわいスポーツ文化局観光MICE振興部長の正木章子氏から、「MICE誘致のための都市づくり」と題してお話しいただきました。

続いて、新潟観光コンベンション協会副理事長の木村勇一氏、宇都宮観光コンベンション協会常務理事の鈴木孝美氏、コンベックス代表取締役専務の西川洋子氏より、新潟市及び宇都宮市におけるMICEの現状や地方都市のMICE戦略について事例をご紹介いただきました。

次に、正木章子氏、木村勇一氏、鈴木孝美氏、西川洋子氏に加えて、宇都宮市魅力創造部長の安納正和氏をパネリストにお迎えし、宇都宮MICEネットワーク会長須賀英之学長の進行のもと、「各都市に学ぶMICE誘致戦略」と題して、様々な面からディスカッションを行いました。120名を超える大勢の皆様にお越しいただき、盛況のうちに終了しました。

■パネルディスカッション「各都市に学ぶMICE誘致戦略」

- パネリスト
 - 宇都宮市魅力創造部長 安納 正和 氏
 - (株)コンベックス代表取締役専務 西川 洋子 氏
 - (公財)新潟観光コンベンション協会副理事長 木村 勇一 氏
 - (一社)宇都宮観光コンベンション協会常務理事 鈴木 孝美 氏
 - 横浜市にぎわいスポーツ文化局観光MICE 振興部長 正木 章子 氏
- 司会
 - 宇都宮MICEネットワーク会長・宇都宮共和大学学長 須賀 英之



■基調講演 「MICE誘致のための都市づくり」

横浜市にぎわいスポーツ文化局観光MICE 振興部長 正木 章子 氏



■事例紹介 1 「新潟市におけるMICEの現状について」

(公財)新潟観光コンベンション協会副理事長 木村 勇一 氏



■事例紹介 2 「宇都宮市におけるMICEの実績、誘致等体制、課題」

(一社)宇都宮観光コンベンション協会常務理事 鈴木 孝美 氏



■事例紹介 3 「地方都市のMICE戦略」

(株)コンベックス代表取締役専務 西川 洋子 氏

子ども生活学部



2024年度 子育て支援研究センター公開講座



子育て支援研究センター公開講座が、7月27日(土)、長坂キャンパスにて開催されました。講師に教育評論家親野智可等先生をお迎えし、「叱らなくても子どもは育つ」のテーマでご講話いただきました。

親野先生は、「子育てにおいて最優先にしたいことは、子どもの自己イメージを悪くしない

ことだ」と述べられました。子どもの成長過程において必ず現れる、親がマイナスに捉えがちな言動を、大人としてどのように受け止め、接していけばよいのか、事例や具体策を出し解説されました。特に、先行研究で明らかになっている、「子どもが生まれつき持っている特性は、子ども時代にはしつけや教育で変えることのできない特別なものである。視点をずらして考えれば、それはプラスの特性であること。さらに、脳の発達の型として、早熟脳と晩熟脳があり、その型にあった子育ても必要だ」ということも言及されました。子どもへの理解を深める研究事例を、いくつか引用されました。



また、子育てでストレスを抱えたときの対処法として、アンガーマネジメントの方法もいくつか紹介されました。

参加者の皆さんも、課題意識をもって真剣に聞き入っていました。質疑応答の時間には、お子さんへの接し方について質問があり、「固定された子ども理解の視点を、子ども側から捉えてみると、違った解釈ができることに気づけるよう」アドバイスをいただきました。

アンケートでは、「子どもへの理解をさらに深めることができ、関わりを変えてみようと思った」などの感想をいただきました。聴講した4年生からも、「子どもを中心に置いた子育てについて学ぶことができ、保育者になった折に生かしていきたい」との振り返りがあり、子育て支援の理念を学ぶ良い機会となりました。



親野 智可等(おやの ちから)先生▶

子ども生活学部



親子遊びの会を開催



7月6日(土)に、親子遊びの会が「七夕の会」を開催しました。地域の親子が長坂キャンパスを訪れ、学生ボランティアが企画・制作したそれぞれのコーナーで、楽しく活動しました。子どもたちは、絵具で絵を描くコーナーで大きな模造紙や段ボールの家に絵を描くことに夢中になり、釣りコーナーでは自分で牛乳パックを使って作った魚を釣る楽しさを味わっていました。活動の最後には、子どもたちが短冊にそれぞれの願い事を書き、それを笹につけて七夕の歌を歌いました。



▲短冊に願いを

参加された保護者の方からは、「子どもたちが普段はあまりできない遊びを楽しそうに行う姿を見ることができて良かった」「夢を持っている学生さん達が一生懸命笑顔で接してくれて子どもが嬉しそう」との感想をいただきました。

これからも子ども生活学部では、子育て支援の場づくりを地域の皆様と一緒に継続してまいります。



▲絵具で絵を描くコーナー



第50回 Tiny

(障がいのある子どもと家族のためのあそびの集い)



Tinyは、障がいのある子どもとその家族を対象に、安心して遊べる場の提供を目的に活動を行っています。

6月29日(土)には、本学保育実習室において「あそびの集い」を開催しました。親子での参加の他、市内の施設から職員と子どもたちの参加もあり、24名の子どもたちが学生たちと共に楽器遊び、パネルシアター、身体活動、お絵描き、生演奏の鑑賞、歌など沢山の遊びを楽しみました。



▲「あめふりくまのこ」のパネルシアター



▲全員で「にじ」を歌う

中でもお絵描きの活動は、アンケートで一番人気がありました。ブルーシートの上に大きな模造紙を貼り、主に手や足を使って描いていきます。Tinyでは学生が子どもたちに1対1で寄り添い、安全を確保しながら思いきり表現できる環境にあり、なかなか家庭や施設ではできない遊びとして喜ばれました。

学生たちは、毎週木曜日の昼休みに集まり、準備を進めてきました。また、活動の反省ミーティングも行い、子どもたちの状況に合わせた関わりができるよう意見を出し合いました。



▲手足を使ってのお絵かき

シティライフ学部



宮桜祭

4月6日(土)、JR宇都宮駅西口の田川遊歩道にて、本学シティライフ学部の学生らでつくる実行委員会が「宮桜祭」を開催しました。

宇都宮市中心部を流れる田川を活用して、まちなかの活性化を図ろうと企画し、今年で3回目になります。

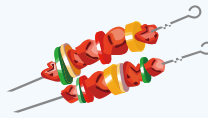
市内の飲食店4店舗が出店にご協力くださり、音楽ライブなどが会場を盛り上げました。



見頃を迎えたシダレザクラがカーテンのようになびき、「餃子を食べながらのお花見が楽しい」と訪れた方は、イベントを満喫していました。



みんな田川でバーベQ



6月9日(日)、本学シティライフ学部の学生を中心とした団体「みやガク」と宇都宮市「若者まちなか活動・交流センター」の共催で「みんな田川でバーベQ」を開催しました。

若者まちなか活動・交流センター(二荒山会館)を会場として開催した第1部では、同施設での若者と地域の交流について考えるワークショップを行いました。地域のために活躍したい若者と、若者をサポートしたい地域の方々による活発な意見交換が行われました。



また、JR宇都宮駅西口の田川遊歩道に場所を移して行った第2部では、宮の橋周辺(幸橋から押切橋の田川河川敷および川沿いの歩道)の清掃活動を1時間ほどかけて行った後、参加者交流会(BBQ)を実施しました。



2学部共通



合宿交流研修



4月18日(木)～19日(金)に鬼怒川温泉ホテル三日月にて、宇都宮共和大学・宇都宮短期大学合同の合宿交流研修を実施し、2年生が1年生をリードしながら、積極的に研修に取り組みました。

1日目、シティライフ学部は栃木市へ移動し「まちあるきをして栃木市のことを深く知ろう」というテーマで研修が実施されました。市内各所の活性化や移住定住の促進など5つのテーマをそれぞれ2グループが担当、計10グループに分

かれて栃木市内を調査・散策し、将来のまちづくりアイデアをまとめました。

子ども生活学部は、「あそびで仲間とつながろう」をテーマに、グループごとにダンスやゲームなど心と身体をフルに使って、子どもたちが楽しむ姿をイメージしながらの研修となりました。

2日目は、交流研修の振り返りをした後、大きなテラスが魅力の大谷の新観光スポット「ベルテラシェ大谷」や「大谷資料館」を見学しました。

